

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

# 湖鳥会会報

第8号 平成15年12月 鳥取大学 工学部 電気電子工学科 同窓会「湖鳥会」

(〒680-8552 鳥取市湖山町南4丁目101番地, 電話:0857-31-5231, e-mail:mohki@ele.tottori-u.ac.jp)



(2002年度卒業研究発表会(鳥取県民文化会館展示室にて)でのポスター・プレゼンテーションの風景)

## 目次

- 電気電子工学科・専攻の近況報告
- 田中先生のご略歴
- 田中先生を偲ぶ
- 省作雑感
- 湖鳥会役員一覧
- 電気電子工学科スタッフ一覧と異動
- 湖鳥会からのお知らせ

## 電気電子工学科・専攻の近況報告

電気電子工学科学科長・電子情報システム工学講座主任  
安東 孝止

久しぶりに、同窓会誌が発行されるとのこと、貴重な紙面をお借りして、最近の電気電子工学科の状況を報告させていただきます。

多くの科学技術が急激に拡大・生産された20世紀から「重いバトン」をうけた21世紀は、諸先輩により開発された諸技術・研究成果を、人類に役立つ技術として再構築していく時代

と言えます。現在も、未知への挑戦は絶え間なく継続していますが、重要な点は科学・技術は、人の幸福のために役立つものでなければならないこと、この当たり前のことをもう一度肝に銘じて再スタートする世紀と考えます。特に電気・電子・工学分野は、人の日々の生活に密接にリンクし、生活様式や勤労の形態までも変えてしまう大きな責任を有する技術分野であります。この意味で、本学科に学ぶ学生は“電気・電子工学という限られた枠”に閉じこもらず、理工学全域の広い裾野をもち、自らのアイデアを実践していく「真の実力」を身につけておく必要があります。当学科ではこの責務を少しでも果たすために、また今後も、元気な電気電子工学科、および専攻(修士、博士)修了生を輩出していくよう、全教官をあげて教育改革に挑戦しています。

平成15年度の学科の一番大きなニュースは、JABEE(日本技術者教育認定機構)審査への挑戦で、その厳格な審査で非常に高いレベルの評価点を受けたことです。このJABEE認定が認められれば(H16年度5月に認定予定と期待しています)。

電気電子工学科の全卒業生へ JABEE 認定証書が授与され、世界水準の技術者教育を修了した学生と認定されます。この JABEE 認定を得るために、当学科では、以下のような教育改革(研究公開授業をベースにした教育改革)を進めてきました。この研究公開授業は、6 年前から敢行しているものですが「教官全員の講義・演習・実験の完全な公開」です。講義への学生からの意見は勿論、外部の諸先生、専門家、および企業の方々から、厳しいご意見、忌憚のない叱責を頂き、可能な限り魅力ある講義を学科全体でつくりあげていくことを目的としたものです。この公開授業制度は、全国でも稀で、当学科が先駆者である自負しています。指導サイドの教官にとっても、学生諸君にとっても非常に厳しい教育プログラムですが、これらの授業改革の継続により、当学科の諸先輩に続く、“実践能力”を身につけた意欲のある学生を輩出していきたいと考えております。

研究者の育成においてはその要を大学院博士課程(前期課程2年間・後期課程3年間)に重点をおいて実践しています。電気電子工学科における大学院への進学者は 50%に近づいており、多くの院生が世界各国の研究者と競争しながら独創的な研究を展開しています。特に大学院博士後期課程では、前期課程からの進学者に加え、多くの社会人学生(企業に勤務しながら博士取得を目指す制度)や海外からの留学生が研究に励んでいます。今後、益々多くの同窓生の皆様がこの制度を有効に利用され、世界に挑戦する技術者、研究者を目指されることを望んでおります。最後に、同窓生の皆様の御健康と益々の御活躍を祈願して近況報告を終えます。

## 田中先生のご略歴

鳥取大学工学部電気電子工学科教授の田中省作先生が、かねてより病気療養中のところ、平成 15 年 9 月 15 日に永眠されました。享年 53 歳でした。最期まで教育と研究に熱意を注がれた田中先生を偲び、御経歴・御業績を紹介致します。

田中省作先生は、昭和 25 年 1 月 2 日に奈良県にお生まれになりました。昭和 43 年に本学工学部電子工学科に 1 期生として入学され、当時の笹倉博教授(現鳥取大学名誉教授)、小林洋志助教授(現徳島文理大学教授)の指導のもとに、卒業研究の課題として、後に田中先生のライフワークとなるエレクトロルミネッセンス(EL)材料の探索研究に取り組みました。47 年 3 月に鳥取大学電子工学科を卒業、同年 4 月同大学工学専攻科電子工学専攻に進学、48 年 3 月に同専攻を修了されています。昭和 48 年 4 月に鳥取大学教務員に採用され、同年 11 月技官を経て、49 年 4 月助手に着任されました。その後、昭和 59 年 6 月に助教授、また平成 2 年 4 月教授に昇任されました。この間、30 年間の長年に渡って、鳥取大学の教官として、電子工学、特に電子物理学に関する教育・研究に従事され、笹倉先生、小林先生とともに 3 人で協力してゼロから研究室を作り上げるとともに、多くの研究成果を上げられました。また、豊富な学識・経験を活かし、教育と研究を通じて数多くの優れた人材を育成し、世に送り出して来られました。

田中先生は、特に、電子ディスプレイ、とりわけエレクトロルミネッセンス(EL)を利用したディスプレイの研究・開発に関して、国内の研究をリードするばかりでなく、国際的にも広く知られた研究成果を上げられました。EL とは、半導体薄膜に高い電場を印加した際に発光が観測される現象であり、この現象を利用し、平面型の壁掛けテレビを目指した研究が、現在も国内外で活発に行われています。田中先生は、薄膜 EL ディスプレイ技術、特にカラー EL 材料に関する研究を行って来られました。特に広帯域の白色発光 EL 材料を見い出すとともに、白色 EL とカラーフィルターを使用することによりカラー EL ディスプレイを実現できる事を、世界に先駆けて示されました。田中先生のこの提案を受け、その後、日本、米国、カナダ、フィンランド、ドイツにおいて、カラー EL ディスプレイの実用化研究がなされています。このような EL 技術の研究開発における顕著な業績が評価され、平成 5 年 5 月に米国の Society for Information Display(SID)から、Special Recognition Award を受賞されました。さらに、ディスプレイ分野での指導的役割も評価され、平成 13 年 6 月には、SID FELLOW Award を受賞されました。

田中先生は、電子ディスプレイに関係する産業界や学会においても、指導的な役割を果たして来られました。平成 13 年 5 月より電子情報通信学会電子ディスプレイ研究専門委員会委員長を務められ、また国際会議においても、第 6 回国際ディスプレイワークショップ(平成 11 年 12 月:仙台市)プログラム委員長、第 10 回無機・有機エレクトロルミネッセンス国際ワークショップ(平成 12 年 12 月:浜松市)プログラム委員・無機 EL 幹事、第 21 回国際ディスプレイリサーチ会議および第 8 回国際ディスプレイワークショップ(平成 13 年 10 月:名古屋市)プログラム委員長を務められました。これらの功績に対し、平成 14 年 2 月に鳥取大学研究功績賞が授与されています。

また田中先生は、鳥取大学の管理・運営にも多大な貢献を果たされました。特に、平成 3 年 6 月から平成 4 年 2 月まで一般教育等検討委員会委員、平成 6 年 4 月から平成 7 年 3 月まで一般教育運営協議会カリキュラム改革専門委員会委員、更に平成 7 年 4 月から平成 8 年 3 月まで大学教育センター運営委員会委員を務められ、今日の鳥取大学の教育組織の基盤を固める上で極めて重要な貢献をなされました。

このような田中省作先生の多くの功績に対し、平成 15 年 10 月 10 日に勲四等瑞宝章が授与されました。



## 田中先生を偲ぶ

### 第12回 電子・(株)日立製作所 椎木 正敏

田中省作先生の突然の訃報に触れ、たいへんに驚き、信じ難い思いが募りました。その思いは、今も続いております。私たちは、先生に心温かく見守って頂き、人生の岐路で幾たびも助けて頂きました。田中先生に深く感謝を申し上げますと共に、ご冥福をお祈り致します。

田中先生は、私たちにとって常に大きな存在であり続けていました。私が固体電子研究室に配属され卒業研究テーマを選ぶ時の出来事です。私は、はじめレーザ分光の研究を選びました。数週間ほどたったとき、突然にエレクトロルミネッセンスの研究にテーマを変えることになりました。もう20年も前のことで、詳しい理由を覚えておりませんが、そのとき先生が「EL もいいよ」と一言、言葉をかけて頂いたことを思い出します。その言葉は簡単でしたが、私の気持ちを思いやるものでした。あのときのテーマ変更が、私の人生を決めたといっても過言ではないのです。

また、修士論文の真っ最中の就職活動でも、このようなことがありました。私が今勤める会社に行くことと決めたときです。蛍光体同学会という伝統ある研究会で、当時鳥取大学で世界に先駆けて研究していた新しいEL材料に関する最新の成果を紹介するため、先生と二人で東京に行きました。研究会の会場で、突然にある人に声をかけられて、私を紹介されました。その二時間後には、日立の中央研究所で当時の研究部長と二時間ほどの面談を受けました。そのときも、学会発表用を持ってきていた資料をさりげなく、私に持たせて頂き、無事面談を終えることができました。その面談が、私が就職できた最大の理由だったと聞いています。

私が在籍していた当時の研究室では、田中先生が実験室の一角に陣取り、自ら半田ごてを握り回路試作にふける、また真空装置のメンテナンスの陣頭指揮を取るの日常茶飯事だったことを思い出します。私は、先生がプロフェッショナルな実験屋であるという印象を持ったことを覚えています。当然研究者としてのご活躍は、言葉を足す必要のないところです。実験事実、データを大切に研究スタイルは、先生のモットーでもあり、その教えを大切に私自身も研究生生活を過ごすよう心掛けてきました。

先生がご病気になられ、私が病院にお見舞いに伺ったときのことです。先生は、国内のディスプレイ研究会や世界最大のディスプレイ学会であるSIDの運営委員としての責務をまっとうされようと心を砕いておられました。それに加え、将来を見据えてたくさんの宿題を私に投げかけて頂いたことを思い出します。先生は、昨年12月に広島で開催された国際ディスプレイワークショップに参加されました。そのときは、関係者の多くの方が驚かれ、先生が完全復帰されることを期待しておられました。私もその期待を心に抱いていた一人です。

亡くられる直前まで、研究テーマに関するご相談を先生と電子メールでさせて頂いておりました。先生が、最近ご提案

され、業界で注目を集めている新しいプラズマディスプレイ用蛍光体材料の研究をご一緒を進めることを計画していた矢先の先生の訃報でした。先生は、最後までディスプレイ研究者としてのこだわりをお持ちになり、夢を実現する努力をなされていたことを痛感しております。

私は、田中先生の独特のGパン姿が深く印象に残っており、あのお姿を二度と拝見できないと思うと寂しい限りです。田中先生に合う度、やさしく微笑み、片手を挙げて、「やあ」と声を掛けて頂いたあのお姿が目には焼きついております。長い間、我々を支えて頂き、ご指導頂きましたことに改めて深く感謝致します。ほんとうにありがとうございました。

## 省作雑感

田中 由美子

夫というよりは、私のことを一番よく理解してくれていた本当の友達の小省作がいなくなってもう8週間、先日忌明けの法要をすませました。

それにしても奈良県で生まれて、「大和はとてもよいところ、五重塔の見えない鳥取なんて」と言っていたのに、なぜ35年間も鳥取に住んだのだらうと、不思議な感じがします。

35年前鳥取大学を受験したのは、高校の三者面談で「理数系の成績だけをみれば、どの大学を受けてもよいと言えるが、この英語が・・・」と言われたからだそうです。電子工学科を選んだのはソニーに就職してトランジスタを作りたいかっただけで、今の子供たちがソニーに行ってプレステを作りたいと言っているのと変わらないなあと思います。

大学では悪友たち(?)と、めいっぱい遊んでいたはずなのに、笹倉先生と小林先生と出会い、そのままずっと湖山に住んで教官稼業を始めてしまいました。

教授になると半田ごてを握るのはやめたようですが、回路を組むのは好きで、自分で設計して電源を作っていたようです。入学した時、お祝いのお金を集めてオシロスコープを買ったそうですから、ものを作るのは本当に好きだったのでしょう。

定期試験の問題を作ると必ず自分で解いていました。それは解かないで出題をしたところ、何通りもの場合が考えられて、時間が足りなくて、学生に悪いことをしたと思ったことが、あったかららしいです。家で問題を解くと私を呼んで、「君には解らないうけど、難しそうにみえる式も、ホラ、簡単な、きれいな式になるだらうとよく言っていました。

ここ十年間、いろいろな会議や学会の委員をして、大学の教職員の皆様や学生さん達に迷惑をかけていたことと思います。本人は電子工学科の一期生で、何もなかった頃のことがあるのか、旗振りをして、鳥取大学の名前をみんなに覚えてほしいという思いがあったのではないのでしょうか。学外でいろいろな活動ができたのは、うしろでサポートしてくださる方々がおられたからで、特に、一生懸命に実験を下さった学生の皆さんのおかげだと思います。エレクトロニクスショー(今はCEATEC?)に出かけて、会社のブースに、卒業生が製品開発に携わった一人として立っていて、説明してもらった時

